



熊本地震災害支援活動報告

南阿蘇村での「ミニ移動おもちゃ図書館」
「おもちゃ図書館&おしゃべりカフェ事業」の記録



■被災地ニーズ調査から支援活動計画の作成

平成 28 年 4 月 14 日 16 日と二度にわたり震度 7 の地震にみまわれた熊本県。

おもちゃの図書館全国連絡会九州地区の理事・世話人が、熊本県・大分県内のおもちゃ図書館の安否を確認。電話がなかなか通じず、被災した仲間がいないことを確認できるまで 2 週間を要した。小国のおもちゃ図書館ミルクからは、被災された方々のために何かできないだろうかとの声も。

6 月 3 日～ 4 日にかけて、小国町社会福祉協議会の協力を得て、被災した地域の子どもたちの状況を知るため、西原村や南阿蘇村、大津町などを訪問し、ニーズ調査を行った。

西原村では、子どもたちの遊びの支援ニーズはあるが、おもちゃ広場を開催するような会場がない。南阿蘇村では、阿蘇大橋が崩落と南阿蘇鉄道の運休、トンネル通行止めのため、生活道路が使えず、大津町周辺に避難した家庭の子どもたちは、大津町のホンダ熊本工場の敷地内にある体育館の避難所の一室で保育をしている。窓もない部屋での保育であり、ぜひ、子どもたちの遊びのサポートをしてほしいとのことだった。

6 月 10 日、おもちゃの図書館全国連絡会の会議に報告し、おもちゃの図書館全国連絡会として、震災で不安な毎日を過ごしてきた子どもたちに、思いっきり楽しく遊ぶことができる場を提供しようと、2 つの支援活動計画をたてた。

★大津町ちようよう保育園分室に ミニ移動おもちゃ図書館を

〈6 月 22 日、7 月 21 日、8 月 26 日
に実施、9 月以降も年内実施予定〉

緊急性の高いちようよう保育園分室へのミニ移動おもちゃ図書館の活動を実施。

福岡のおもちゃ図書館のメンバーが中心となって、6 月 22 日、7 月 21 日、8 月 26 日と訪問。まとあてや魚釣り、ままごと、絵合わせなどの布の手作りおもちゃやエプロンシアターや手遊びに、子どもたちは大喜び。8 月 26 日の訪問では、大津町のホンダ体育館避難所はすでに閉鎖になり、分室だけが残っていたが、子ども達の元気な姿にホッとした。

なお、このミニ移動おもちゃ図書館事業は、日本おもちゃ図書館財団の助成が受けられることとなった。

★南阿蘇村立ちようよう保育園で 「おもちゃ図書館&おしゃべりカフェ事業」

〈8 月 6 日に実施〉



ちようよう保育園のホールを借りて、おもちゃ図書館とおしゃべりカフェ、ミニコンサートを実施。

支援活動のための資金が必要であることから、中央共同募金会の「ボラサポ・九州」の助成金を申請する共に、福岡市社会福祉協議会、大野城市社会福祉協議会にも共催をお願いし、福岡県、熊本県のおもちゃ図書館の仲間たちが集まり、準備を進めた。うれしいことに、7 月末に「ボラサポ・九州」の助成が決定。

ポスター、ちらしを作成し、ちようよう保育園園長先生をはじめ、南阿蘇村社協にお願いをし、広く配布し周知を図った。

また、8 月 5 日毎日新聞に、「NPO おもちゃの図書館『子どもたちに笑顔を』熊本地震南阿蘇村でイベント」と紹介記事が掲載された。

■多くの人の協力で「おもちゃ図書館&おしゃべりカフェ事業」を実施

8月6日は晴天に恵まれ、青空が広がり、会場であるちょうよう保育園は、小高い丘に、広々とした木造平屋建てで、木の香りがやさしく包みこみ、さらに笑顔で迎えてくれたのは園長先生。

当日は、熊本県のおもちゃ図書館から、熊本市天寿園、小国町のミルク、熊本市北部東おもちゃ図書館あいあい、和水町の障がい者授産施設銀河ステーションとコンサート担当の野田さん、福岡県からは、大野城市社協からマイクロバスを出していただき、あいあい、でんでんむし、福岡大学ボランティアサークル、福岡県小郡市からゴリリン、福岡市社協の車で福岡ポケット、その他、大野城市社協、福岡市社協の職員、そして全国連絡会から小泉、鈴木（訪）、浅野の3名の理事が参加、総勢44名のボランティアが集合した。最初に、小泉理事長から、「子どもたちもボランティアの皆さんも、みんなで一日楽しみましょう」と挨拶。早速準備にかかり、全国連絡会から送ったおもちゃや各おもちゃ図書館が持参した手作りおもちゃが、手際よくなればられ、あっという間に、ホールはおもちゃ図書館に変身。

被災地では様々な支援イベントが開催されており、子どもたちが遊びに来てくれるかな？という心配をしていたが、一番乗りのちょうよう保育園の子どもたちと保育士さんたちは、たくさんのおもちゃに目を輝かせ、楽しそうに遊びだした。その後、続々とお母さん、お父さんと一緒に子どもたちが、遊びに来てくれた。

手作りおもちゃのスイカを一生懸命切って食べようとする子、真剣に魚つりをする子、プラレールに夢中になる子、着せ替えコーナーでドレスを着てお母さんにスマホで写真をとってもらう子、ボランティアも子どもたちもみんな楽しそう。コップタワーは、子どもたちに大人気。学生ボランティアと一緒に、高く積み上げては崩す遊びを何度も繰り返えしながら、笑い声が響く。

幸せのちょうちょやぶんぶんゴマづくりコーナーでは、ボランティアに手伝ってもらいながら、出来上がった時のうれしそうな笑顔。子どもたちが、ボランティアと一緒に遊んでいる傍らで、お母さんやお父さんが嬉しそうに子どもたちを見守る姿や、お母さんたち同士のおしゃべりも弾む。

締めくくりに、野田さんのミニコンサートがスタートし、子どもたちの大好きな♪あんばんまんマーチ♪幸せなら手をたたこうをみんなで歌い終了した。



参加したおもちゃ図書館からは、「震災後、何か支援をしたいと思ったけれど、一つのおもちゃ図書館だけではできない。みんなで一緒に、移動おもちゃ図書館ができて、本当によかった。」との感想が出された。一つのおもちゃ図書館ではできないけれど、みんなが集まれば、何かできる！九州地区の日頃からのおもちゃ図書館のネットワークがあったからこそ、実現できた活動である。

また、当日行った南阿蘇村への募金活動では、19,452円集まり、翌日、南阿蘇村社協に届けることができた。

最後に、この活動を支えてくれた福岡市社協、大野城市社協、(株)大泉工場、(株)中村屋、(株)アイ・アップ、(株)C-GRATに感謝する共に、快く支援活動を受けいれてくれた南阿蘇村ちょうよう保育園の皆さんに心からありがとうを伝えたいと思う。

参加者から
うれしい感想も

参加させていただいた者です。今日はお世話になりました。

スタッフのみなさん、遠くから来ていただきありがとうございました。

あたたかい対応、そして子ども達とたくさん遊んでくださってありがとうございました。開園時間の最初から最後まで楽しんでました。

震災後、橋やトンネルが崩壊したので、なかなか気軽に遠出ができなくなりました。9ヶ月の小さい子がいるので、特に遊びに行くのは大変で…今日は娘、長男、次男、みんな楽しんでいて、私もすごく嬉しかったです。娘は「またいつかある？また行きたいなー」長男は「楽しかった！また行きたいな」と言ってます。

もしまたおもちゃ図書館が南阿蘇にくる事があれば、今回来れなかった友達も誘ってまたぜひ遊びに行きたいと思います。



ちようよう保育園のそばのヤマザキショップにも、ポスターが貼ってありました。



2016年(平成28年)8月5日(金)

毎 日 新



素にボールを当てて遊ぶ手作りの的当てを手にする藤原さん(左)ら

6日は布のボールを先に当てて遊ぶ的当て

NPO「おもちゃの図書館」

子どもたちに笑顔を

被災地 南阿蘇村であすイベント

熊本地震 被災地 南阿蘇村であすイベント

熊本地震のあすもまた、被災地である南阿蘇村のちようよう保育園で、おもちゃの図書館NPOが主催する「おもちゃの図書館」が6日、熊本地震で大

被災地である南阿蘇村のちようよう保育園で、おもちゃの図書館NPOが主催する「おもちゃの図書館」が6日、熊本地震で大

被災地である南阿蘇村のちようよう保育園で、おもちゃの図書館NPOが主催する「おもちゃの図書館」が6日、熊本地震で大

毎日新聞(福岡版)に掲載されました



当日参加のボランティア集合写真

なごきまはまはももじり、頭をのびのびと揺る。無事な子どもたちも、お母さんやお父さん、おじいちゃんやおばあちゃん、お友達と一緒に、笑顔で遊んでいました。

11時~午後5時、入場料無料。問い合わせはおもちゃの図書館全国連絡会 03-6807-8813 FAX 03-6807-8863

「おもちゃの図書館」



特定非営利活動法人
おもちゃの図書館全国連絡会

〒116-0001 東京都荒川区町屋 2-7-5
電話 03 (6807) 8813 FAX03 (6807) 8863
Mail: renrakukai@toylib-jpn.org
http://www.toylib-jpn.org/index.html